

# 2008年活動中間報告（後半の報告は文末をご参照ください）

<中間報告内容> 報告日：2008年7月18日

1. ご挨拶
2. 1月～7月までの全体スケジュール（概要）
3. 中間訪問について
4. 団体の組織化について
5. 2008年後半の予定

## 1. ご挨拶

2008年中間ベトナム訪問を終えて 代表：中平順子

いつもご支援くださる皆様に心から御礼申し上げます。

おかげさまで、現地で通訳を担ってくださっているKさん、そしていつも安全に運んでくださる運転手のクイさんのおかげで、無事に訪問を終えることが出来ました。今回は、今までにない、いくつかの成果がありました。

ひとつは、ビンユン省の障害者センターへ、昨年来約束の車椅子を2台寄贈することが出来たこと。全部のセンターを訪問することは出来ませんでした。スケジュールの許す限り、直接向き合って、コミュニケーションを深め合い、現地で何が一番求められているのかとか、この刺繍コンテストの本来の意義を理解していただくこともテーマに、センターとその傘下の家庭を訪問することが出来たこと。（今回のコンテスト応募者の中で、3名の3家庭訪問）貧しい中にもひたむきに生きる家族の様子をじかにふれることが出来、とっても感動しました。何よりもうれしかったのは、刺繍コンテストに、喜んで参加して下さっていることがわかったことです。

タンフーンセンターは、受講している生徒の顔ぶれは入れ替わりもありましたが、皆生き生きとミシンを踏み、笑顔が輝いているのです。42歳の成人女性が受講していました。新しい広がりです。私たちが届ける寄付金が、このセンターの支援のほとんどを占めていることを聞かされたとき、ささやかな活動の継続を大事にしなければと思わされます。このセンターの卒業生は、日本企業を含めた縫製工場へ就職していて、これまでに、80名を越す人数になると聞きました。宝くじ売りや、危ない仕事でなく、正業に就けることは、本当にうれしいことです。

ベトナムの発展は、目覚しくホーチミンは建設ラッシュです。ホテル代も値上がりしていたし、米代は倍になっていました。いろいろな規制も増えて、人々の暮らしが怒涛のように変化していく様子が、あちこちで垣間見られました。格差社会の中に突入しているなかで、私たちの果たす役割も大きいと感じ、心を引き締めて関わっていかうと、しみじみ思いました。

いつもお心にかけて、ご支援くださる皆さまのおかげで、この支援は続けることが出来ています。どうぞ、これからも宜しく願い申し上げます。

## 2. 1月～7月までの全体スケジュール（概要）

2008年の上半期活動スケジュールとして、「作品展示会」と「支援製品の販売」を主軸に展開するとともに、現在は任意団体という組織体制をより社会的な立場に底上げするべく、それに必要な情報のリサーチやワークショップなど積極的に参加をしました。以下、展示会、製品販売の詳細です。

### ● 作品展示会の開催先一覧

上半期の展示先として、以下の場所で作品展示会を開催しました。また、来月8月には国際協力に関心のある学生ボランティアを受け入れての展示会も予定しています。

3月1日 まつど市民活動サポートセンター 『NPO・市民活動見本市』にて

4月15～20日 埼玉県草加市中央公民館 『ベトナムの刺繍作品展示会』（第4～6回作品）

7月2～15日 滋賀県東近江市

（8月8～10日 千葉県松戸市 ゆいの花公園を予定）

### ● 支援商品の販売

2月9日（土）東京ボランティア・センター事業「ふれあい満点市場」にて

2月17日（日）葛飾区市民活動支援センター事業「多文化共生フェスタ」にて

3月2日（日）沼田市ボランティアの集い

### ● 日本～ベトナム間の学生交流事業、開始！

まつど市民活動サポートセンター事業「Let's体験」に参加

こちらの企画は、中学生・高校生・大学生にボランティアを体験してもらうという内容で、松戸市内の学生が200名近く参加している夏休みイベントです（松戸市公認）。ABMSは、学生ボランティア受け入れ団体として参加しています。現在、高校3年生の女の子2名がボランティア希望をしてくれていて、来月に予定されている刺繍コンテスト作品展示会を手伝ってくれます。また、こちらに参加した学生さんには、作品を見た感想などをレポートしてもらい、そちらはベトナム語に翻訳の上、12月のコンテスト会場に貼り出してベトナムの子どもたちに読んでもらおうと計画中です。

## 3. 中間訪問について

6月28日（土）～7月4日（金）まで、ベトナムに中間訪問へ行ってきました。訪問先と訪問内容は以下のとおりです。

6月29日（日）

午前：生地の種類や価格リサーチのため、ホーチミン市内の市場をリサーチ

午後：刺繍糸、備品の価格リサーチ（物価高騰事情を受けて）、車椅子リサーチ

Memo

【市場リサーチ】

4月、センターを統括している現地NGOより“刺繍コンテスト参加センターより、補助としてABMSが支給している製作経費の値上げ要望が届いている”との意見をいただきました。ベトナムの急速な経済発展は目覚ましい勢いということを訪問のたびに目にしていました。その矢先の出来事だったため、中間訪問では活動初日にあたるこの日、生地や縫製用品、刺繍用品関連を販売している市場をめぐり、糸の値段などをリサーチしました。その結果、大きな価格変動はありませんでしたが、種類によっては値上がりしているものもありました。正確に説明するとすれば、質の良い糸などの値段が上がっているということです。「良いものを創りたいゆえ、良い糸を使いたい」、そう願う気持ちは充分理解できます。センターに参加人数分を支給してきた刺繍製作経費の補助を値上げするのか、それともほかの項目を立てて別途支給するべきか、この夏のABMSの課題です。

【車椅子リサーチ】

午後は、車椅子の寄贈を約束していたビンクン省職業訓練センターに貴さんを通して連絡を取り合いながら、要望の車椅子のタイプなどを聞き、実際に安く買えると紹介してもらった店舗を訪問しました。しかし、そこの店主に割引の話が通っていないようだったので、別のところで購入することに決定し、購入は後日ということにしました。

6月30日(月)

午前：タンフーンセンターに寄付金を届ける（年間センター運営費）、F.F.S.C ご挨拶とフェアトレード製品の注文

午後：ピンアンセンター訪問、刺繍クラスの見学と担当教師との面談、刺繍創作コンテスト会場拝借のアンミンろう学校にご挨拶伺い（会場の予約）

Memo

【タンフーンセンター】

恒例のタンフーンセンター6月訪問。この訪問では、群馬県のHさまよりお預かりした年間のセンター運営費を届けました。今年は、Hさまの分にプラスして、ABMSからも運営費を寄付しました。タンフーンセンターの近況としては、すでに昨年12月にセンターで勉強していた子どもたちは就職したとのこと。新しい生徒たちが一生懸命、汗を流しながら縫製を学んでいました。



要望のあった備品は、前回の訪問で寄付した日本製の糸きりハサミ。とても使い勝手が良いそうで、10本欲しいとの要望をもらいました。このほか、LAUREL社、NATIONAL社、ZENITH社のミシン針が欲しいとのことでした。型番を控えたので、これから探したいと思います。あと、布を傷めずに切れる糸きりペンシル？みたいなものも次回、持っていきたいです。

## 【ビンアンセンター】

昨年より初めて刺繍創作コンテストに参加し始めたビンアンセンターを訪問。これまではセンターの先生宅を活動拠点にしていましたが、今回訪問したらセンターの場所が近所の教会になっていました。理由は「暑いから」。石造りの教会は風のとおりも良く、子どもたちは元気いっぱい刺繍を勉強していました。ビンアンセンターには、訪問を前に皆さまよりいただきました寄付金から、刺繍をする際に生地をはめ込む輪っかや刺繍糸などを購入して寄贈しました。このほか、以前、ABMSに無名で届けられたたくさんの刺繍糸、そして色鉛筆や文房具なども寄贈させていただきました。今後の必要な備品要望を聞くと「チャコールペンスルが欲しい」とのことでした。（昨年コンテストのとき、参加賞で全員にプレゼントした針山をみんな使っていました！）



## 【アンミンろう学校】

第7回刺繍創作コンテスト開催のため、会場予約のお願いをしにアンミンろう学校を訪問。校長先生は変わらぬ笑顔で出迎えてくださり、今年度の使用を許可くださいました。わずかですが、子どもたちのおやつ代として100万ドンを寄付しました。

7月1日（火）

午前：ビンアンセンターに通う子ども3人の家庭見学、母親との面談

午後：ビンコン省職業訓練センター（障がい者就労支援施設）寄贈用の車椅子購入と配送の手続き、キエンザン省に向けてホーチミンを出発

Memo

## 【ビンアンセンター、家庭訪問】

F.F.S.Cのアレンジのもと、ビンアンセンターから刺繍コンテストに参加している女の子の自宅3軒を家庭訪問させてもらいました。



まずひとり目は DAO さん。7 人兄弟姉妹がいますが、お父さんは風邪で亡くなってしまったそうです。祖母宅の脇を流れている川の上に浮かぶ小さな船が DAO さんの自宅でした。お母さんは魚とりで生計を立てています。

ふたり目は、9 歳の女の子の HUNG さん。3 人兄弟で、お父さん、お母さん、おばあさんと借家住まい。自宅を訪問すると、弟君が私たちにコップいっぱい に注がれたお水を配ってくれました。お母さんは 29 歳で橋のたもとで中古の靴を売って生計を立てているほか、お父さんは建築現場で働いているようで、この おうちの平均月収は 100 万ドンいくかどうか…。家賃が 50 万ドンなので、一家 6 人が残りの 50 万ドンばかりで暮らしているのだそうです。ここのところ、お父さんが事故にあい、ケガがなかなか治らないようであまり働けないということでした。

最後のお宅は、Nguyen Thi Hong Tho さん。ビンアンセンターで一番刺繍が上手な女の子です。4 人家族で、笑顔が素敵なお母さんが私たちを出迎えてくださいました。お母さんの Tran さんは現在 37 歳。ご主人と一緒に建設現場で 1 日働いて、毎日 6 万ドン（2人で 12 万ドン）を稼いでいます。メコンデルタ地帯から出稼ぎでホーチミンにやってきたそうです。Tho さんのお姉さんは 16 歳で、すでに仕事に就いています。Tho さんも家計を助けるため、仕事に就きたいと希望していますが、Tho さんには病気があるため、外で働くのが難しい状況です。ときどき発作が起きてしまうため、ご両親も Tho さんも好きな刺繍でお金を稼げればと希望しています。

#### 【車椅子購入】

ビンアンセンターの帰り道、車椅子を安く買える病院を紹介いただいたので、そこに向かいました。病院と思われる建物に近づくと、門のところで看護師さん が出迎えてくれました。さっそく要望の車椅子を見せてもらい、全員で試乗。乗り心地はバツグンです。1 台 170 万ドンでよいというので（もちろん新品です！一番有名な車椅子ブランドの品物です）、2 台を購入。4 日までにビンユン省の施設に届けてもらうようお願いしました。



車椅子の手配終了後、キエンザンへ出発！キエンザン省はホーチミンから車で6時間以上ひたすら走っていく、カンボジアと隣り合わせの地域です。本当は国内線でビュッと行ったほうが色々な意味で楽なのですが…そんな予算はございませんっ（苦笑）。この日の夜は、宿泊先ホテルのお風呂場にゴキブリが4匹も登場し、休む前にまずは熾烈な戦闘を繰り広げなくてはなりませんでした…。

7月2日（水）

午前：キエンザンセンター訪問、フェアトレード注文の相談など

午後：キエンザンセンター出発、ホーチミンへ戻る（21時、到着）

【キエンザンセンター】



キエンザンセンターを訪問すると、朝からせっせと子どもたちが刺繍を製作していました。その横で、見なれない女の子（まだ5歳～10歳少し）たちが文字の勉強をしていました。よく見ると、ベトナム人ではない子もいました。校長であるホンシスターに聞くと、彼女たちはカンボジアから流れてきたストリートチルドレンとのこと。「昔からカンボジアからは子どもたちがよくやってくるけど、最近特に多いのよ」と話していました。シスターにいわく、「彼女たちはラッキーなほうよ。だってここに連れてこられたんだから。おおよその場合、女の子は売春宿とか、そういうところに売られてしまったりするのよ」とのことでした。無邪気に笑い、鉛筆を取り合いながら一生懸命文字の勉強をしている彼女たちが、無事に成長していくことを祈るばかりです。



今回、キエンザンセンターに発注したフェアトレード製品は、群馬県の平井さまよりいただいていたTシャツの刺繍10枚、それとABMSでもTシャツの刺繍を注文したほか、赤ちゃん用品として、ヨダレ拭きハンカチやおくるみの刺繍などもお願いしてきました。こちらは12月の完成予定です。

午後、キエンザンセンターを後にしてホーチミンへ戻りました。やっぱりキエンザンは遠い。ホーチミンに到着したのは夜 8 時過ぎでした。

7月3日（木）

午前：レミンスアンセンター訪問、近況報告など伺い。

午後：ビンユン省職業訓練センター訪問（車椅子 2 台寄贈）

夜の便でベトナム出国

Memo

午前中はホーチミンから車で 1 時間半のところにあるレミンスアンセンターを訪問。事実上、レミンスアンセンターは解体してしまっているようですが、センターとしての活動はしていなくとも、センターのメンバーとして刺繍コンテストには毎年生徒が参加してくれています。ただ、地域的に貧困層の子どもたちを支援する活動がしづらい場所であることや、これまで子どもたちの面倒を見てきた教師の家族が体調を崩し、看病しなければならないなどの事情のほか、センターの責任者の先生もご主人がリストラされそうとのことで、急遽働きに出なければならないなどのトラブルに見舞われていました。そんな事情では今後、フェアトレードの発注をお願いできないのではと聞くと、ファン先生は「私たちはバタバタしてはいるけど、それでも仕事を求めている子どもやその母親がいるので、できたら今後も依頼してほしい」とのことでした。今回は用意をしていきませんでした。今回の訪問では依頼できるよう準備したいです。

今回の訪問のとき、刺繍コンテストに参加している生徒のお母さんと面談しました。こちらのお母さん、肝臓にできた胆石でとても具合が悪いとのことでしたが、治療費が払えない事情ゆえ、手術を受けられないと話していました。医療の問題は法律的にも難しいところもあるし、手術後のケアの責任などを考えると、そうたやすく「手術費用の支援」とは言えません。ですが、日本ではすぐに治療できる病を長年抱え、いまにも命の灯が消えそうな表情と弱弱しさで目の前にたたずむ母親の姿を見てしまった以上、何かできることを探したいと思いました。

【ビンユン省職業訓練センター】

昨年 12 月に訪問した障がい者の人たちをケアしている施設です。枯葉剤の被害についてのスタディーツアーでお世話になった場所です。訪問の際、施設課長のグエン・クーさんにとってもお世話になり、その際、車椅子を生徒から要望されたことはブログにて報告したとおりです。私たちに車椅子を要望した生徒は、そのあと国際赤十字より車椅子をもらえたそうですが、ほかにも車椅子が必要な生徒がいると聞き、その中でも最も必要だと思われる女性二人に寄贈することになりました。彼女たちは足がまったく動かないという障害のため、自力で歩くことができません。これまで、家族や友人の手を借りて移動しなければならない状態でした。ふたりともとても喜んでくれ、寄贈したこちら側としても、「自由に動ける！」という喜びに溢れた二人の表情を見ることができ、嬉しかったです。事故などにあうことなく、元気に過ごしてくれることを祈るばかりです。



この日の夜、通訳のKさんご一家、運転手のクィさん、そしてF.F.S.C スタッフの方と一緒に夕食をとり、夜の便でベトナムを出国しました。

7月4日（金）早朝、成田到着

今回も予定どおり、すべてのミッションを無事に済ませることができました。それもこれも、いつも変わらぬお気持ちで協力・支援くださる皆さまのおかげです。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

#### 4. 団体の組織化

現在、ABMSは任意団体です。今後の組織体制については、ご支援いただいている皆さまにご意見を伺いながら、適切な組織にと発展していきたい所存です。

#### 5. 2008年後半の予定

【8月】

製品販売（ヴェトナム・フェア@土瑠茶）

団体の組織化に必要な手続きを順次進める（税理士との打ち合せ）

コンテスト作品展示会開催@ゆいの花公園（学生ボランティア体験受け入れ）



## 【9月】

団体の組織化に必要な手続きを順次進める  
第7回刺繍創作コンテスト作品提出期限（9月最終日）  
作品のコメント文、8月の学生ボランティア作文の翻訳手配  
作品審査準備（審査委員の選定・依頼）  
作品審査展示会の準備

## 【10月】

団体の組織化に必要な手続きを順次進める  
コメント作文翻訳依頼  
コンテスト賞金、賞状、参加賞などの準備  
消費者展示会参加（松戸市/国際協力団体のトーク・イベント）  
年末訪問の手配（航空券、センター訪問アポ取りなど）

## 【11月】

団体の組織化に必要な手続きを順次進める  
チャリティー作品審査会開催  
訪問・渡航準備

## 【12月】

年度末訪問（12月3、もしくは4日～）  
第7回刺繍創作コンテスト開催@ホーチミン（アンミンろう学校/12月6日土曜日）  
2008年後半期の活動報告書作成

以上を持ちまして、2008年1～7月までの中間活動報告とさせていただきます。なお、会計報告は通年どおり年末訪問終了を持ってのご報告となります。ご了承ください。ご不明な点などございましたら、いつでも下記までお問い合わせください。

## 2008年活動後半報告

<後半報告内容> 報告日：2009年1月15日



1. ご挨拶
2. 2008年8月～12月の活動詳細
3. 国内作品展示会について
4. 年末訪問（2008.12/3～/10）の報告
5. 2008年の新規事業紹介
6. 寄付の報告

1. ご挨拶 代表：中平順子  
08年第7回ベトナム創作刺繍コンテストを終えて

新年明けましておめでとうございます。ご支援いただいている皆様のご多幸、ご健勝お祈り申し上げます。そして、今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2001年よりはじまったベトナム創作刺繍コンテストのプロジェクトも2009年の今年で9年目を迎えました。この支援に着手したのは、その2年前からなのでベトナムとのかかわりは10年を越すこととなります。なにごとにも「継続は力」といいますが、まさにその格言を実感として心に落ちてくる昨年の12月ベトナム訪問でした。

コンテスト応募の12作品は、どれも心の思いが生き生きと表現されていて、甲乙つけがたく難しい選択でした。今回は参加者も少なかったこともあり、全作品が賞の対象となりました。特に今回から「国際ソロプチミスト利根ぬまた賞」が加わりました。「アジアの文化を守り育てる会」開設当初より、さまざまなご支援とさらにこのような賞を設けていただくことになりました。子どもたちにとってもますますの励みになることでしょう。うれしい限りです。

対象年齢の20歳をこえた少女たちは卒業し、新しい低年齢の参加者も増えました。市販の刺繍絵から脱した個性ある表現が増えたことも成果と思えます。自分自身の内部と呼応した表現作品が増えてきたことは私たちの活動成果として受け止めています。

昨年度は、作品展示会も滋賀県東近江市の図書館や埼玉県草加市中央公民館、千葉県松戸市ゆいの花公園展示室、カフェギャラリー土瑠茶など、少しずつですが、日本国内での展示が増えました。

そのなかで、日本の皆さんから寄せられた作品へのコメントをベトナム語に翻訳し、12月のコンテスト・訪問時にベトナム各施設や少女たちに読んでもらうことができました。困難な状況にもめげず美しい刺繍作品を制作し、作品へこめた思いに触れた日本の方々の感想文も、言葉の贈り物としてベトナムの少女たちへ届けることができたのも、大きな成果です。また、12月訪問では各施設のベトナム人スタッフとの交流もでき、共にベトナムの恵まれない少女たちへの支援として大変温かいかわり合いとなってきたと感じています。

世界は不況の嵐が吹き荒れていますが、私たちはできることの中で心を合わせ、ご支援くださる皆様と共にベトナムの恵まれない少女たちの成長の手助けとなるよう、温かい風を届けていきたいと、あらためて決意を新たにしています。

皆様からのご支援なくしては、この活動は続ける事はできません。長年のご支援に心から感謝を申し上げますとともに、どうぞ、今後ともご意見含めて共に歩むかわりを構築できたら幸いです。

## 2. 2008年8月～12月までの活動報告

2008年8月以降は、千葉県松戸市紙敷にある「ゆいの花公園」にて、日本人の学生ボランティアを受け入れての国内展示会を開催したほか、10月は松戸市消費生活展示会にパネル展示参加しました。また、11月にはコンテストに応募された作品審査を行い、12月にホーチミン市にて第7回刺繍創作コンテストを開催しました。ご協力くださった皆様、ありがとうございました。



ゆいの花公園にて (08.8.9)

各項目の詳細は以下のとおりです。

## 3. 国内作品展示会について

### ①8月…国内展示会開催について (千葉県松戸市)

ABMS初めての試みとして、学生ボランティアを受け入れての国内作品展示会を開催しました。こちらは、松戸市のまつど市民活動サポートセンターが主催する学生のためのボランティア体験事業に参加することで実現しました。

今回、ABMSの作品展示会ボランティアスタッフを希望してくれたのは、大学生2人と高校生2人の計4人。3日間にわたって開催される展示会のほか、親子連れを対象にした紙芝居実演や草花遊び講座（どちらもABMS代表中平順子が講師を担当）のお手伝いをしてもらいました。学生を受け入れての国内展示会事業は、実はABMSにとっては初めてのことで、海外支援に関心のある学生たちが多かったこともあり、「ただ手伝いをした」というだけの時間にならないように、受け入れ側として事前にワークショップ研修にも参加し、学生ボランティアの受け入れプログラムを作成しました。

受け入れプログラムの最大のねらいは、「ベトナムの子どもたちが創った作品をじっくりと理解し、それぞれの心に響いた価値観を自分の言葉で来場者に伝えられるようになる」ということ。ABMSの刺繍創作コンテスト開催の理念に、「表現活動を通して子どもたちが輝けるようなきっかけをつくること」というところがあります。

今回の作品展示会では、学生ボランティアとして参加した彼女たちが、ベトナムの子どもたちの作品を自分の言葉で表現・紹介することで、他者に自分の気持ちや価値観を伝えることの難しさや楽しさに対して、そこをどう乗り越えたり自分の物として体得するのかを思索するきっかけになるよう、考えてみました。つまりは、展示会のボランティアをとおして「自分と向き合う時間」になるよう、そんな主旨で受け入れプログラムを構成してみました。以下、ボランティアに参加した学生たちの感想文です。

H・R君（高校1年生/16歳 神奈川県横浜市在住）

自分は8月8日から10日まで展示されていた刺繍を見ていて、あんなにキレイな刺繍を作っている人が自分と同じ位の歳の人達だと知って驚きました。それと、刺繍を見ていると、刺繍が本物のように見えてきて、自分の心に何か伝わってきました。その何かは、家族や友人のような大切な人への思いが自分には感じました。ベトナムの人達の思いが糸1本1本にこめられていると思います。

I・Hさん（高校3年生/18歳 千葉県市川市在住）

ベトナムの子供たちの作品を見て、第一に思ったことは、これは人の手で作れるものなのか？ということ。まるで一枚の絵のように仕上げられた刺繍作品は、とてもキレイで繊細で、それでいて力強い。見れば見るほど、思いが伝わってくるんです。心が動かされました。作品だけで誰かの心を動かすって、本当に大変なことですよ。なかなかできません。それをベトナムの子供たちは若干10~20歳の子供たちが作品で何かを伝える。大きな印象を与える。相手に何かを考えさせる。そんなことをしてしまうんです。私はハッとしました。私が10~15歳の頃って何してたんだろう？たぶん、寝るか両親に反抗するかぐらいです（笑）。同じ人間なのに…と少し落ち込みました。背負うものの大きさと、人はこんなにも強く、一日を大切に、充実した人生を遅れるんだ、と実感しました。そして、作品と一緒に飾ってあった、“作者の思い”。これは本当に心が温かくなりました。ちょっと泣きそうになりました。こんなに家族想いで一つのこと、例えば刺繍だったり遊ぶことだったり、勉強だったり、母親の後姿だったりを大事に思える子供は居ません。私は本当に驚きました。素晴らしかったです。

私は、ベトナムの皆さんに一つ言いたいことがあります。いつか時代が流れて皆さんが成長した時、こうやって家族の助けにと頑張った日々は、何よりもの誇り・自信になります。胸を張って前を向いて、大きく歩いていくことができます。だから、どうか今のままの心持って。変わらないで。今の皆さんの輝きを忘れないで。最愛の人と大好きな家族と手を取り合っただけの笑いながらの幸せな日々は、

皆さんの頑張りがないと成り立ちません。イコール、皆さんは大変大きな支えなのです。誰かの支えになるということはとても凄いことです。時には自分がくじけそうになるけど、そんな時は思ってみて下さい。大好きな人たちの楽しそうな顔を。そして、少しでも心を休ませてあげてみて下さい。私も背負うものはいっぱいありますが、皆さんのこと、心から応援していますよ。私も頑張ります！だから一緒にくじけずに生きていきましょう！！またあの素敵な作品たちを見せて下さいね。応援しています。

○・Rさん（大学3年生/千葉県松戸市在住）

今までで国際協力の勉強をする機会があり、少しでも現場でお手伝い、ボランティアなどで経験してみたいと思ったのが今回応募するきっかけになりました。そしてボランティアを通し自分を成長させたい、体験してみたいという気持ちから今回の志望の動機になりました。

イベント当日まで作品を見られなかったもので、私は当日心躍らせる気持ちで当日の朝会場へと足を運ばせました。早く刺繍が見たい、国際協力支援のボランティアをするというよりもそれが私の気持ちになっていました。

展示作品を通し、技術もさることながら家族の愛、友情を素直に感じました。刺の無いバラの作品には特に惹かれ、バラは私にとって心落ち着く物で、バラを普段から見るとは好きでした。バラを友情と表現し刺のない友情をテーマとした 純真無垢なこどもの発想、さらにそれを表現する高い技術にまず感動しました。

また、母と子の作品にも心を惹かれました。親と子の愛はどんなことがあっても不変であり、その作品を通して、物質豊かな今の日本人がいったい何人もの人が、そのことに気付くだろうか疑問に思いました。私も改めて母のありがたみ、感謝を感じる事が出来、この作品の出会いには私は感謝しています。

子供たちの作品を見て、感動するひとはどのくらいいるのだろうか、私は運良く出会えた人の一人にすぎないのですが、これからも展示でより多くの人に触れられて欲しい作品が沢山ありました。それも伝統的なベトナムの刺繍を通して自己を表現し刺繍を通して人としての在り方をテーマにしたすばらしい作品たちばかりでした。

また、ボランティアを通して様々な優しさを感じました、国際協力とは一概にいてもとても大きくはなく個人レベルで運営しているこの会は資金もまだまだ不足で人との繋がり合いで成り立っていて、一人一人が助け合って成り立っているのだな、と感じました。

そして私自身、今回ボランティアを体験して少しでもお手伝いすることができてとてもよかったです。お手伝いすることによってベトナム刺繍のフェアトレードのことについても知ることができ、少しですがベトナムの現状の理解が深まりました。

② 10月…松戸市消費生活展示（パネル参加）

「まつど地球市民かいぎ」和久深雪さんのご紹介により、松戸市で35年間にわたって開催されている市民活動イベントにパネル展示参加しました。こちらは、松戸市の環境保護団体が主軸となり、それぞれの市民活動をパネル紹介しているイベントです。10月3日（金）～5日（日）までの計3日間、松戸の伊勢丹にて開催され、タイの子どもたちを支援している団体、そしてネパールの支援をしている団体と同じブースで参加し、いろいろと情報交換ができました。お声がけをくださった、「まつど地球市民かいぎ」の和久深雪さん、ありがとうございました。

### ③ 9月～11月後半について（作品の日本到着、翻訳と審査会）

第7回刺繍創作コンテストの作品提出期限は、9月30日でした。今年も刺繍コンテスト後援団体のアクア・ブランチスタッフの方々にご協力いただき、作品を日本に郵送いただきました。アクアの皆様、毎年ありがとうございます。また、作品締め切りにあたっては、現地ボランティアスタッフとして通訳の河村きくみさんにセンターへ連絡をしていただくなど、多大なるバックアップをいただきました。河村さん、ありがとうございました。

日本に作品が郵送された後は、作品に添付された子どもたちのコメント文の翻訳作業があります。こちらは、神戸在住の倉本真由美さんに毎年ご協力いただき、翻訳をお願いしております。わずか1ヵ月という短い期間の間に、作品コメント文、そして国内展示会で寄せられた来場者の感想文も合わせて翻訳いただいています。倉本さん、毎年のご協力をありがとうございます。

10月に完成されたコメントの翻訳とともに、いざ作品審査会です。第7回コンテスト作品の審査会は、11月7日（日）に埼玉県さいたま市の土瑠茶にて審査会が開かれたほか、以前より支援いただいているソロプチミスト利根沼田さんのご厚意により、2008年から「国際ソロプチミスト利根沼田賞（受賞対象人数：1人）」が新しく創設され、そちらの審査会も群馬県沼田市にて開催されました（賞金はソロプチミスト利根沼田が出資）。また、松戸市在住の刺繍職人、内田真理子さんにも作品を見ていただき、技術力についてなどご意見を伺うことができました。作品審査にご協力くださった方々、お忙しいところにもかかわらずありがとうございました。

## 4. 年末訪問（2008.12/3～/10）の報告

### ■12月…年末訪問、第7回刺繍創作コンテスト（ホーチミン市）

2008年の年末訪問を下記日程で実施しました。詳細は以下のとおりです。

日にち 午前 午後

12/3 水 成田出国

/4 木 タンフーンセンター訪問 アンミンろう学校挨拶、コンテスト準備

/5 金 コンテスト準備（飲食・菓子の購入手配） フィールド用生地・備品の購入、コンテスト準備

/6 土 コンテスト当日（8時会場入り） コンテスト反省会

/7 日 ティエズエンセンター（車椅子購入・寄贈） 少数民族観光農場訪問

/8 月 ビンアンセンター訪問 レミンスアンセンター訪問

/9 火 F.F.S.C 訪問 COCORO センター訪問、深夜HCM出国

/10 水 早朝 成田到着

### 【スケジュールの詳細報告】

12月3日（水）出国

年末訪問の同行者は、6月の訪問にも参加された、埼玉県草加市のM・Sさん、そして今回初参加という沖縄県那覇市在住のI・Tさんです。午後3時に成田 空港で待ち合わせをし、軽く打ち合わせをした後、飛行機に搭乗しました。夜便につき、18時過ぎに成田を出発し、ホーチミンに到着したのは23時過ぎ。相変 わらずの笑顔で我らの運転手ウィさんがむかえてくださり、サンタクロースのような大荷物を車に載せ、ホテルへと向かいました。6時間ちょっとのフライト、お疲れさまでした。

12月4日（木）タンフーンセンター、アンミンろう学校



朝6時半起床。ベトナムの朝は早いのです。なぜならば、みんな朝早くから営業活動をしているのです。本日の訪問先はタンフーンセンター。ABMSがベトナム支援を始めた2001年当初からのお付き合いのところで、こちらは場所をいくつか変わりながらも同じシスターがずっと担当して子どもたちに縫製技術を教えるクラスを開講してきたセンターです。6月に訪問した際にはクラスを受講する生徒が数人通っていました。しかし、それ以降になって縫製技術を学びたいという子どもたちの数が減り、9月にはこれまで通っていた生徒含め、新規希望者が集まらない状況になってしまったそうです。大きな理由として、ベトナム、特に高度成長期にあるホーチミンでは、好景気の裏で経済格差が著しく生じており、このようなセンターに通う子どもたちの家計状況が非常に逼迫しているそうです。そのような背景から、子どもたちひとりひとりにとっても苦しい状況が起こっており、「勉強している場合ではない」という選択し、センターに生徒が来れなくなってしまったことがクラス閉鎖の理由と、担当のハー・シスターから報告を受けました。

希望者が少なくなったセンターをそのまま放置しておくのはもったいないとの判断から、F.F.S.C内部でタンフーンセンターの今後について検討をし、縫製クラスの機能を新しく創設されるビンアンセンターに移築するという構想が生まれていました。

ビンアンセンターとは、2008年の刺繍創作コンテストに新しく参加をしたセンターで、Pham The Thien 地区にあるキリスト教会の部屋を借りて刺繍や学業のクラスを開講しています。現在、F.F.S.Cとその支援者であるイギリス人夫婦（ホーチミン在住）による発案・協力のもと、近隣地区に土地を購入し、ビンアンセンターを大きな職業訓練施設にするべくセンター建築計画が進められています。そちらへ、タンフーンセンターにあった縫製訓練プログラムと設備を移築しようということです。タンフーンセンターのハー・シスター、そしてF.F.S.Cのプロジェクトマネージャーのヒエンシスター同席のもと、建築計画説明を受けました。

クラスが閉講されたというタンフーンセンターでしたが、ミシンなどの道具が教室に残されていました。その理由は、「これまで多大なる支援をくださっていた国際ソロプチミスト利根沼田の皆さん、そしてその後、（ABMSをとおして）個人で支援くださったHさん、そしてアジアの文化を守り育てる会に報告をした後で、クラス移築の承諾をもらった道具類を運ぼうということになっていた」とのことです。もちろん、ABMSとして理解を示した上、これまで長年にわたって運営資金提供をくださっていたHさんにすぐ事情を伝え、説明いたしました。

タンフーンセンターは一時的に閉鎖をするという判断とこのことで、今後、地域に縫製技術習得の希望者が増えればまたクラスを再開することもあり得るということでした。

6月の訪問時に1年間の運営資金をHさんより預かり、タンフーンセンターには寄贈していたため、クラス閉鎖までの期間、そしてその後それらの資金がどのように使用されるのかを含めた報告書を提出してもらうようF.F.S.Cに依頼しました。

午前中いっぱいをタンフーンセンターで過ごし、午後はコンテスト会場として講堂を拝借しているアンミンろう学校に挨拶に伺いました。アンミンろう学校では校長先生と面会し、コンテスト当日に予定している「お絵かきワークショップ」についての説明をしました。なぜならば、大きな紙にめいっぱいクレヨンで絵を描くというワークショップを初めて開催するため、床にクレヨンがはみ出さないようにブルーシートを敷き詰めるなど、会場利用について許可をいただくため。難しい顔をされるかなと心配しているのですが、それどころか校長先生は「面白そうね！」と満面の笑み。「良かったらアンミンろう学校に通う子どもたちで、関心ある子がいたらぜひご参加ください」とお伝えしました。

## 12月5日（金）コンテスト前日、準備

前日ということで、この日はコンテストに関する作業が盛りだくさん！という1日。参加者全員の飲み物やお菓子、昼食の手配のほか、準備品の賞状や参加賞に漏れや間違いがないかを最終チェックする日。朝早くから市場やお店を駆けまわって手配をし、夕方は早くにホテルへ戻って賞状に書かれた名前などのチェック作業をしました。作業を手伝ってくださったMさん、そしてIさん、ありがとうございました。夜10時に確認作業は完了。翌日も早いのでなるべく早めに就寝をしました（とはいっても心配で、結局寝たのは深夜1時過ぎでした…）。

## 12月6日（土）コンテスト当日

朝7時半、ホテルロビーに集合。1台の車にダンボール二箱、各種荷物がめいっぱいつまんだ入れ物を持参した人間7人が乗車し、アンミンろう学校へいざ出陣！国際線の荒波を乗り越えヨレヨレになったダンボール箱を後生大事にいくつも抱えてガヤガヤと出かけていく我ら一同に、ホテルの従業員たちは好奇心いっぱいの様子です。

さて、アンミンろう学校に到着。アクア・スタッフの方がたも集合くださり、さあ準備です！タイムテーブルに沿って、それぞれ担当分けをし、1時間半で設営を済ませます。会場に張る垂れ幕は男性陣にお任せし、女性陣営は受付準備組とテーブル・椅子・作品設営組、賞状・参加賞陳列準備組に分かれます。さすがは7回もやっているということで、皆テキパキと作業を進め、問題なく設営作業は完了しました。完了したところで、軽く「お絵かきワークショップ」の打ち合わせです。日本語をベトナム語に訳す通訳の担当割り振りや、ベトナム人のスタッフの方には率先して絵を描きあぐねている子どもたちに話しかけ、「思いっきり大きく描いてごらん！」と促すファシリテーター役を、と打ち合わせをしました。

さあ、コンテストの開始時刻です。開始時間に遅れてしまったグループはありましたが、緩やかな雰囲気です。今回のコンテストでは、はじめての試みを2点用意しました。まず1つ目は前段から登場している「お絵かきワークショップ」。2つ目はベトナム人による紙芝居実演です。今回の実演者は、通訳Kさんのご主人であるHさんがインドネシアの民話『おとうさん』（童心社出版）を実演くださいました。Hさん、ありがとうございました！

紙芝居の後はお待ちかねのワークショップです。会場イッパイにブルーシートを敷き、日本から持参した障子紙を3本広げました。その準備風景だけで、子どもたちもセンターのシスターたちも目が輝き、みんなが「いったいこれから何をはじめるの？」と好奇心に満ち溢れた表情。司会が「これ



から思いっきり大きく 絵を描く、というワークショップを始めます」との言葉を皮切りに、こちら  
も日本から持参した日本製のクレヨンに参加した子どもたちに各自ひとつずつ（12色）配布しま  
した。もちろんクレヨンはプレゼントです。それぞれ所定の位置につき、いざお絵かきタイムのスタ  
ートです。はじめの数分はあまりにも紙が大きい すぎたのか、描き方に悩んでいる様子の子もた  
ちでしたが、最年少参加のオチビちゃんたち（1歳半〜）が描き始めると…あらあら不思議！影響され  
たのか、それぞれが一気にクレヨンを紙に走らせ始めました。



当初は会場がワイワイガヤガヤと大盛況になって収集がつかなくなってしまうのではと心配して  
いたのですが、むしろ全員が集中しすぎて会話がゼロ！クレヨンで塗りつぶす音だけがタイル貼  
りの教室にこだましていました。アクア・ブランチスタッフのウェンさんが気を利かせてくれ、携  
帯電話にダウンロードしていた音楽をマイクに流して即席でBGMを設けてくれました。響き渡  
る民族音楽の中、約50分間ほど子どもたちは思いっきり絵を描いたのでした。

お絵かきワークショップの後は、いよいよコンテストの審査発表です。今年の実賞者は、以下のと  
おりでした。会場では名前が発表されるたびにそれぞれのセンターの子どもたちが歓声をあげ、喜び  
を分かち合っていました。

#### ■第7回刺繍創作コンテスト受賞者一覧

##### 【15歳未満】

最優秀賞	レ・ティ・ゴック・チンさん（ピンアンセンター）
優秀賞	チャン・ティ・トゥック・ダオさん（ピンアンセンター）
特別賞	グエン・ティ・ミ・ズーンさん（ピンアンセンター）
技術賞	チャン・トー・ゴック・ビックさん（キエンザンセンター）
アイデア賞	グエン・ティ・ホン・トーさん（ピンアンセンター）
努力賞	ダオ・ダン・フンさん（ピンアンセンター）
中平順子賞	ヒュン・ティ・ミー・レさん（レミンスアンセンター）

## 【16歳以上】

- 最優秀賞 グエン・ティ・キム・イエンさん（キエンザンセンター）  
優秀賞 マイ・トー・トゥイ・リンさん（キエンザンセンター）  
特別賞 チャン・ホワン・カーンさん（レミンスアンセンター）  
デザイン賞 グエン・ゴック・ティエン・タンさん（レミンスアンセンター）

## 【国際ソロプチミスト利根沼田賞】

ドン・ティ・カム・リンさん（キエンザンセンター）



第7回のコンテスト参加賞は、縫製箱のセットです。一箱3500円もしましたが、中には裁ちハサミ、針セット、チャコールペンのセットなどなど、日本の子どもたちが家庭科の授業で使用しているのと全く同じ内容のものをひとり一箱ずつプレゼントしたほか、支援者の方より寄贈された素敵な絵が描かれた2009年のカレンダーを1本ずつ、そして額装された賞状をそれぞれにプレゼントしました。

コンテスト終了後、各センターの担当者からは「今年は全員に賞状が渡されたほか、お絵かきワークショップという新しい試みを体験できたので、子どもたちがとても喜んでいて、これまでで一番楽しく、有意義な時間だった」との感想をいただきました。

コンテストが成功できたのは、日々お心を寄せてくださる支援者の皆さま、そして現地で協力くださる方々のほか、アクア・スタッフの皆さまのおかげです。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

この日はコンテスト終了後に恒例の反省会をアクアのスタッフの方々と、そしてABMSの現地協力者の方々とともに開きました。次回もワークショップを開催することを目標に、それぞれがアイデアを出し合って、より良い内容のものを実施していこうということになりました。

## 12月7日（日）ティエンズエン・センター訪問

今日は待ちに待った車椅子プロジェクト実施の日です。前回と同じ施設に寄贈するのではなく、今回はホーチミンの労働系新聞社に勤務されているアンさんの協力をいただき、クチ周辺のティエンズエン・センターに折りたためる車椅子2台と歩行練習器を2台寄贈しました。アンさんはベトナムの各地にある障がい者施設などを取材している新聞記者で、ティエンズエン・センターには過去何回か取材をしているそうです。

こちらの施設は、施設長であるCHU NHIEMさんが個人で始められたセンターです。身の回りにいる障がい者の方々の状況を見るに見かねて、ご自宅の土地をセンターにと開放したのがいまから約15年前のこと。最初は1～2人くらいしか集まっていなかったのが、現在は赤ちゃんから60歳くらいまでの120人近くが共同生活をするまでになりました。障害を理由に捨てられた孤児が多く、CHU NHIEMさんは自宅を2軒あるうちの1軒の自宅を売り、こちらの施設を始めたそうです。



センターの収益事業は、栽培した野菜を販売しているほか、障がい者の人たちが製作したビーズの品、それと胡椒などのスパイスを売って経費を上げています。



一方で、腸が横腹からむき出しになってしまう病を抱えた子どもが数人いることから、さまざまな医療器具が必要とのことで、そちらの用具を取り寄せるのが大変と話していました。必要な薬や医療器具が高額なため困っていたのですが、いろいろと話を聞いてみると、「実はパンパースの数が追いつかない」という意見がありました。というのも100人以上の障がい者（児童を含め）をケアしている施設のため、毎日膨大な枚数のオムツを消費しているそうです。「今度来るときには、パンパースも持ってきます」と約束をしました。

日本のドラマが大好きというCHU NHIEMさん。「初めて日本人が訪問してくれて嬉しいわ！ぜひ私を日本に連れて行って！日本の施設を見学したいわ」と話していました。



歩行練習機をさっそく使う女の子。



動ける子は率先して、動けない子の面倒を見ていました。

## 12月8日（月）ビンアンセンター訪問

朝8時に F.F.S.C 事務所で待ち合わせをし、ビンアンセンターを訪問。



月曜日は刺繍のクラスが開講されているため、見学訪問しました。今回で3回目の施設訪問につき、通っている子どもたちの顔もなじみの子が増えてきました。ベトナムの女の子たちは恥ずかしがりやさんが多いため、なかなか打ち解けるのが難しかったのですが、視線が合うととても嬉しそうに微笑んでくれます。いつもの訪問では、指導にあたる先生たちとバタバタと打ち合わせを、子どもたちと少しだけ会話をして次のセンター訪問へと移動することが多かったのですが、今回はじっくりと子どもたちに向き合ってみようと思い、なるべく多くの子に話しかけてみました。参加賞の縫製箱はどうだった？と聞いたところ、「もっとたいなくてまだ開封していない。大事なものをしまう自宅

の棚にしばらくしまっておく」と答える生徒が多かったです。また、子どもたちにあげた裁縫箱を指導 教師の方々も欲しがっていたのが印象的でした。現地のニーズを聞いた上で考えた今回の参加賞。今年はグレードアップした甲斐がありました。

ビンアンセンターには、松戸市のTさんよりお預かりしていた蚊帳と文房具、そして茨城県のAさんより寄贈された刺繍糸をお届けしました。また、タンフー ンセンターにかわって縫製と刺繍のクラスを盛り込んだ新施設にビンアンセンターは計画中とのことで、建築計画中の土地を視察してきました。

さて、午後はレミンスアンセンターを訪問しました。レミンスアンセンターに在籍していた子の中で、不幸な事に交通事故にあい亡くなってしまった子がいました。その子の葬儀日程がコンテスト日と重なってしまい、残念ながらレミンスアンセンターの2名は今回コンテストに参加できませんでした。当日来られな かったかわりに、こちらからセンターに出向き、それぞれの賞金や賞状、参加賞などを指導教師のフン先生に手渡してきました。



コンテストの出題テーマなどについて意見を伺ったところ、「ベトナムの街」という設定はとても良かったとのことでした。その理由には、参加した子どもたちと一緒にバイクに乗って街中を走り、子どもたちがイメージする景色を探し歩いたのがとても楽しかったのだとか。子どもたちにとっても、先生の背中につか まりながらイメージを膨らませる時間は実りあるものだったそうです。レミンスアンの子どもたちが作ったいずれの作品にも、風をきって街を走っている爽快感 が漂っていました。

#### 12月9日(火) F. F. S. C本部、COCORO センター (V-HEART) 訪問

F.F.S.C 本部を訪問し、夏に発注していた携帯電話入れの製作状況について打ち合わせをしました。サンプル品としてひとつ出来上がっていたものを確認し、留め具の位置やヒモなどの長さを調整しました。こちらは約40個ほど発注していて、2009年1月内には完成するとのことでした。そのほかには、以前注文したことのあるエプロンをお願いしたほか、新たに製作されていたセンターの商品を購入しました。また、国際ソロプチミスト利根沼田さんよりご紹介いただいていた、絵画コンクールの応募作品を受け取りました（こちらは帰国後に日本からコンクール事務局へ発送済みです）。



この日のお昼は、打ち合わせの流れから F.F.S.C でご馳走に。ちょうど、神父さんやシスターの皆さんがお集まりになっていたので、私たちも同席の上、食事を一緒にいただきました。F.F.S.C のミーティングルームにある長机いっぱいにはベトナム手料理が並び、一堂に会して食事をする様子は、さながら宗教画の『最後の晩餐』といった雰囲気。和気あいあいとした雰囲気の中、コンテストについて「もっとこういうことをしてみよう」などなど、さまざまな意見を伺うことができたほか、これから一緒に良いものを創りあげていこうという気持ちを感じました。



午後は、チョロン市場近くの生地問屋街に行き、発注予定のカフェエプロンの生地を購入。そのほか、ABMSの支援活動資金源となる市販製品をいくつか購入しました。夕方には、障がい者の人たちが自主運営をするまでに成長したCOCOROセンターに行き、商品を購入しました。これまでになかった色合いやデザインの商品が登場していました。

夕食は、F.F.S.C の日本人スタッフの方々をお招きして懇親会を開催しました。総勢10数名でさまざまな意見交換をし、次年度に向けての方針を共有しました。ベトナムの支援活動を始めてから間もなく10年(会としては2001年ですが、その2年ほど前から実は交流が始まっていました)。節目の時期を迎えたいま、これまでにお世話になった方々とじっくりとお話ができるたことを本当に嬉しく思っています。ご多忙のところお集まりくださり、ありがとうございました。

夜の深夜便でホーチミンを出発し、10日の早朝、日本に到着しました。

## 5. 2008年の新規事業紹介

2008年は従来どおりの年2回ベトナム訪問のほか、滋賀県近江市立図書館での作品展示会を開催いただきました。また、新しい事業として、以下の事業を実施・参加しました。

- まつど市民活動サポートセンター主催の「NPO・市民活動見本市」実行委員参加
- 東京ボランティアフェスティバルに海外支援団体として物品販売参加
- 葛飾区市民活動センター主催の多文化共生フェスタに物品販売参加
- 文科学委託調査研究事業『地域 SNS“アイラブジモト・松戸“を使った地域に開かれた家庭教育支援の方策を検討する実行委員会（通称：With ラブマツ実行委員会）に参加（08.6～09.3）
- 高校生・大学生ボランティアを受け入れた国内作品展示会の開催（子どもの健全育成と国際交流意識向上を目的とした事業）
- 車椅子寄贈プロジェクト（分野指定という方策で寄付を募り、実施しました）
- お絵かきワークショップ（創造力の育成事業として）

## 6. 2008年の寄付、協力者について

【一般寄付者・団体一覧】（順不同/敬称略）

個人名につき、ネットでは非公開

【事業者（刺繍創作コンテスト後援・支援）】（順不同/敬称略）

国際協力団体アクア、JR 東日本労働組合大宮支部、国際ソロプチミスト利根沼田、国際ソロプチミスト志木

【物品提供協力】（順不同/敬称略）

個人名につき、ネットでは非公開

【国内作品展示会 会場提供】（順不同/敬称略）

滋賀県東近江市立図書館、埼玉県草加市中央公民館、松戸市紙敷「ゆいの花公園」、など

【コンテスト作品審査協力】（順不同/敬称略）

個人4名、国際ソロプチミスト利根沼田

【国内イベント企画、場所提供協力】（順不同/敬称略）

まつど地球市民かいぎ

【ABMS製品販売協力】（順不同/敬称略）

四季の森、Tanaya、(株)サンポー（ロックハート城）、カフェ土瑠茶

【事務局協力】（順不同/敬称略）

マイケル・クラクストン（作品写真撮影）、倉本麻美子（翻訳）、河村きくみ（通訳）

おかげさまで、2008年も無事にすべての支援を計画どおり完了させることができました。皆様のご理解・ご協力に深く感謝いたします。ありがとうございました。詳細は次ページの会計報告をご参照ください。